

ブレスト・インプラントによる乳房再建術を受けた患者さん

日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会からの通達についてのお知らせ

拝啓 時下ますますご清祥のことと存じます。

この度、日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会より、BIA-ALCL(ブレスト・インプラント関連未分化大細胞型リンパ腫)についての通達(添付いたしましたので、ご参照ください)がございましたので、当該手術を受けられた患者さんにお知らせいたします。

BIA-ALCLの多くはブレスト・インプラント挿入術後5-10年後以降に漿液腫(再建乳房に液体がたまる)で発症しますが、被膜拘縮(乳房の引きつれ)やインプラント周囲の腫瘤で発見された例もあります。早期であればインプラントと被膜摘出にて治癒する場合があります。

無症状の患者さんに特別な治療や検査が必要になるわけではございませんが、今まで通り、年に1回程度の乳房超音波検査は受けていただきたくお願いいたします。また、添付通達のとおり、しこりや腫れなどの異常を感じ場合には、速やかに受診してください。

いずれにいたしましても、当該手術を受けられた患者さんにおかれては、可能であれば、まずは当院を一度、受診されますよう、お勧めいたします。

敬具

平成29年11月2日

埼玉医科大学総合医療センター

形成外科・美容外科 教授 三鍋 俊春

ブレストケア科 教授 矢形 寛

病院長 堤 晴彦

診療のご予約は形成外科・美容外科外来受付までお電話ください。

〒350-8550 埼玉県川越市鴨田1981
形成外科・美容外科外来 049-228-3636
(受付時間日祝を除く8時半-17時)